

# 日刊 動労千葉

86. 8. 8

No. 2314

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五、六・（公衆）〇四七二、二二七、二〇七

## 闘う方針来る 率直な声も充実

協販部K生寄稿

六月二十九日、広島上映会終了と同時に四国・愛媛にむけて「物販オルグ」の旅に出発する。

約二日間をかけて国労・全通それに病院などの民間労組を中心にまわる。

「民営・分割されれば全線廃止も」

### 粉砕！ 工事着二期塚三里 / 阻止！ 分割「国鉄」

四国の鉄道は電化率ゼロ、「分割・民営化」されれば四国すべての線が廃止になると言われている。職場を訪ねての対話の中で、この状況の中で国労の仲間も危機感をつのらせ「このままでは国労もダメになってしまう。動労千葉でもあれだけの闘いをやれたのだから、私達も闘うべきだと思う」、さらに「方針を出すことによつて団結も生まれるし、今なら闘える」と本心に闘いをもとめる意見が多く出された。

### 分割「国鉄」

全通においても、中央本部の屈服という状況でも現場の労働者は「国鉄労働運動を解体させるわけにはいかない。有志民としても物資販売を取り組みます。頑張って下さい」と心温まる言葉に逆に激励される場面もあった。



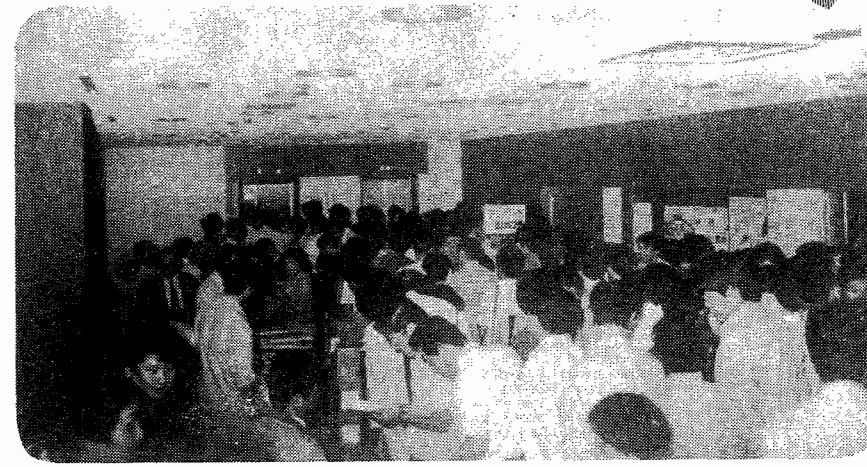
## 戦記 奮闘オルグ物販

中央の屈服路線に批判続出  
闘いを求める地方の仲間たち

また、動労四国の組合員も中央のあまりの屈服・裏切りの進行に現場では批判が続出しているといううわさも聞いた。動労の伝統を完全に棄げすて、敵の手先に変質してしまつた動労革マル・松崎の自己本意な組織運営にあらためて怒りがこみあげてきた。

期間は短かかったが、今回、四国の各地の職場を訪ねてみて、現場の素直な声が聞け、現場の労働者は中央の屈服を許さず闘いを求めていることがひしひしと伝わってきた。

全国すみずみまで物資販売、上映運動の成功をかちとり、「六一・一一ダイ改」



へむけさらに全国の仲間と共に突き進むことを決意して、四国の地をあとにした。  
(寄稿・協販部K生)



記事は直接関係ありません

8月9日(土)

### 動労千葉「労働学校」

第十回講座のお知らせ

一日時 八月九日(土) 十三時三〇分  
 二 場所 動力車会館  
 三 テーマ 「戦後労働運動史」(その一)  
 四 講師 労働運動研究家 大塚 宏氏

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！